

---

『GSH』

kasuta-do

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

『GSH』

### 【Zコード】

N6415M

### 【作者名】

kasutado

### 【あらすじ】

春・・・

それは始まりの季節。

飛鳥高等学校に入学した千秋誠チアキマコトは

1・Bのクラスの個性的な生徒達と出会つ。

そこから始まつた普通の人生では体験できない事を体験した生徒達の物語である。・・・。

## 第1話 「始」

春・・・・

俺はある高校に入学した。その高校の名前は飛鳥高等学校。結構いい学校だと聞き死ぬ氣で受験勉強をしたら受かってしまった。もちろん、中学の時友達だった奴は一人もいない。

ああクラスで孤立してしまつたらどうしよう・・・

なうんてキャラでもないこと考えてしまつた。

いきなりだが自己紹介だ。俺の名前は千秋誠。チアキマコト

結構チヤラめで意外にも剣道をしているピチ若な16歳だ。以上！  
は？誰に自己紹介してるかだつて？

・・・・そんなの言わなくともわかるだろ？

そして俺は入学式と言つ名の睡魔の格闘場へと向かつた。

・・・・くそつ！やはり校長の長話恐るべし！

途中で睡魔にK・Oされちまつた。

てかここまで簡単に寝れるつて校長の長話は子守唄以上なのか？

・・・あれ？この学校たしか理事長がいるんじやなかつたつけ？いややつぱ校長だけか？

と頭の中で校長をいっぱいにしながらクラス表のある場所に向かつた。

てか校長もだけどなんでちょっと偉い人は毛が薄いんだ？  
ううむ・・・あつ着いたか。

えーとなになに・・・俺の名前は・・・・

・・・・お、あつた。

俺の名前があつた場所のクラスは

「ふむ 1 - B か・・・・・」

・・・なんかベタな気がする。

1 - B ってなんかベタな気がする。・・・。

・・・・・おわっ！

時計に目をやるとうすぐで H.R. が始まる時間だった。  
どうりで人が居ないわけだ・・・・・って納得している場合じゃない。  
急げ！俺の下半身！――

・・・・・セーフ！―― 時間に間に合つたぜ！―― あれ結構いけるじゃん！―― 俺の下半身！――

とか思つてたら興奮していつの間にかガツツポーズをしていたみたいだ。

我を忘れるとはまさこのことだな！―― ははははは――

「う～るわ～～～～～～～！」

いきなり机をおもいつきり叩いて立ち上がってきた。

あつやべ。俺の笑い声口にだしてたのか。本当に我を忘れてたみた・

・

と思つていたらいきなり目の前に拳が飛んできた。

俺はそれを最低限な動きでかわす。

「つっツ！―― 危ね～だろ！――」

チツと舌打ちをしてきた。

ああ～ん。なんだこ～いつ！

と顔に目をやつた。

そいつは黒髪で肩よりちょっと高いぐらいのショートで  
黒いメガネをかけていてこっちをすごい目で睨んでいた。  
あれだな。こいつ絶対マジメキャラだな。

「五月蠅いんだよ！ わたしもからーーなにいきなりH.R前にギリまにあつたぐらいに来て

笑いだすんだよ！ あれか！ お前にこがあれなのか！ ！」

と言ひながらそいつは指で頭をつんづんしている。

あつこいつ無理だわ。

と思いながら俺も反逆に転じる。

「ちょっと我を忘れてただけだよ！ てゆうかいきなり殴つてくるとか危ないだろ！」

「我を忘れている時点で可笑しいぞ！ たわけが！ ！ ！」

くつこいつとは友達になれそうにないな。 ・・・と思つていたら

「入学オメデトウー————！」

なんか教室に入ってきた。

「はい！ 俺は今回1-Bをうけもつ事になつた堂本正一だ————！ 年間よろしくな————！」

テンションが異常に高い担任だな。

「こきなりだが————自己紹介をして貰おう————自分の名前と好きな食べ物を言え————！」

まじかよ————。 てかなぜ好きな食べ物をチョイスするんだ？

「じゃあ最初からいくぜ————はい！ ドーーーん————！」

### 自己紹介スタート（女子から）

「え～と私の名前は秋山凪アキヤマナギです。 好きな食べ物は～～～お味噌汁です！ ！」

なぜお味噌汁の時テンション上げてるんだ？？

「私は雨宮恵アマミヤメグです。 好きな食べ物はキャビアとか・・・かな」

「はい！ こいつボンボンだな！ はい！ 決定！」

「サダメトツノズナ」  
物語の筋道が、物語の筋道である。

・・・・・微妙だな。好きな食べ物。

「私は椎名譲です。好きな食べ物は・・・・い、いちごです／／  
なぜ照れた？なぜいちごで照れた？？」

「長門咲夜。・・・・・好きな食べ物は・・・・・特やくそ」

・・・・大丈夫か・・・?

「私は西山静です。好きな食べ物は得にありません。」（凛）

まつまさかの金髪ハーフか！？

心の中のシシコミが連発され女子は終わり男子の番になつた。

「・・・・・古賀雅之」 ガタン  
名前だけ言って座りやがった！

「賀川修一！好きな食べ物は食べれる物ならなんでもOK！……！」「食べれる物ならいいって……なんだそれ。

おつ黒髪の番だ。  
ゴザワン

一 荒沢真だ。好きな食べ物はヨーグルトだ。  
二 ぶつっ！ よ、ヨーグルトって・・・

キロ！！！

「陣明蓮。  
ジンミンレン

座りやがつた！！！

「陣明！好きな食べ物いつでないぞー！」

つついに堂本が動いた！！！

「・・・・ふう。・・・・好きな食べ物はギョーザの皮」

適当に言いやがった!!!!絶対適当だ!!!!!!

つて俺の番か。

「千秋誠とです。好きな食べ物は焼きそばひやんです。」（噛んでしまった！）

（荒沢）

おおきに、うつへ、言い迺せね

てか好きな食べ物詠うの?」などソーシャル的には結構くるものがあるんだけど――――――

「重本豪つてんだ！好きな食べ物はうまい棒だぜー！これからよろしく！」

・・・・・まともな方か・・・・・?

「安形亮です。好きな食べ物は・・まあ特にありません。一年間よろしくお願ひします」

来た！ まともな奴がついに来た！ ・・・ つて背ちつちせー！ ！ ！ ！  
これ 150 いつてるか いってないくらいじや ・・・ 。

まあその後の人も自己紹介が終わつた。・・・正直まともな奴が少  
ないきがするけど・・・。

そんな感じで高校生活初日は終わった。

これからどうなるんだ? とゆづ不安もよぎりそれは見事に命中する

ことになるとま

その時はこれっぽっちも考えていなかつた。

## 第1話 「始」（後書き）

今回このオリジナル小説『GUSH』を読んでくださいありがとうございました。

量も今回はあまり多くありませんでしたがこれから増やしていくたいと思います。

更新日はやや遅い時もあると思いますがよろしくお願いします。

## キャラクター説明（女性）（前書き）

たくさんキャラをだしてしまったんで  
説明をしたいと思います。

## キャラクター説明(女子)

まずは女子からーーー！

秋山風  
アキヤマナギ

年齢：15歳

誕生日：7月18日

身長：158cm

特徴：髪の色は茶色で、髪の長さは肩につくぐらい。

ちょっと天然で自分の発言が相手に地雷を踏むことが多い。

雨宮恵  
アマミヤメグリ

年齢：15歳

誕生日：5月4日

身長：162cm

特徴：髪の色はクリーム色で、髪の長さは腰につくぐらいのロング。  
少し金持ちの匂いが漂ついてるあるふわもこをか。

定本瑞希  
サダメトミミズキ

年齢：15歳

誕生日：9月2日

身長：159cm

特徴：髪の色は黒で、肩を少しこいえるぐらいの髪。  
演歌や和風料理と結構しぶい物好き。

シイナユズル  
椎名譲

年齢1：5歳

誕生日：11月9日

身長：165cm

特徴：髪の色は黒で髪型はポーテール。

男前な性格でみんなからの信頼も厚い。でも少し可愛い物好きとゆう乙女っぽい所もある。

長門咲夜  
ナガトサクヤ

年齢：15歳

誕生日：3月26日

身長：156cm

特徴：髪の色はとても薄い桃色で髪の長さは首を隠すぐらいのショート。  
結構なルックスだが性格はちょっと暗め。ちょっとオタクの匂いがある。

セナ

年齢：15歳

誕生日：1月14日

身長：161cm

特徴：母が日本人で父がアメリカ人のハーフ。  
髪の色は金髪で、髪型はツインテール。  
明るい性格でちょこちょこ喋る時に、英語が入る。  
セナとしか名乗っていなくて本名は不明。

西山  
静  
ニシヤマシズカ

年齢：15歳

誕生日：10月11日

身長：163cm

特徴：とても『凛』とした風格で

髪の色は黒で髪型は短めのボニー・テール。

その風格あるオーラは男でさえもジリつかせる。

## キャラクター説明（女子）（後書き）

ふ。

女子だけでも結構居ますね・・・。  
こんなに登場人物出して大丈夫かな・・・？

## 第2話「決」 前編

「ふああ～」

今、俺は登校中である。

家から学校まで結構な距離があるため早く起床しなければならない。自転車があれば楽なのだが一人暮らしの為あまり買う余裕はないのだ。

一人暮らしは言つておくが大変だぞ？

飯も自分で用意しなければならないし

身の回りの事は全部やらなければならぬ。

なにより金がいる・・・・。

金がいっぱいあればちょっとは楽になるかね・・・・。

と思いふけていたら俺の真横に突風の用な物が俺の身体をすれすれで通り過ぎた。

「うわっ！～～？」

情けない声を出してしまつたがすぐに前方を見る。だが何もなかつた。

「。。。。は？」

なんだ？さつきのは本当の風ではないのは間違いないが・・・・。

・・・

つて！早く学校行かねーと！

学校到着

ふ～ギリセーフつて所か・・・・。

俺は安堵と共に自分の席に流れ込むように座った。

あ～～！座るとぬう行動がここまですぱらしいとは…！と自分の周りに展開された安らぎフィールドをいきなりダイレクトに壊してきやがった。

「まだ学校が始まつて2日目となりの二時間、ギリ、ギリとは情けないな。千秋！」

くその芹沢か・・・・・。

「五月蠅いんだよ！俺の安らぎ空間を破壊したんだから覚悟できてんだらうな！」

「なんだ！自分が悪いとゆうことも分からんのか…！」

ああもうこいつ死んでしまえ！まじで！

まあいい。剣道少年だから棒があるほつがいいが素手でも充分いけるぜ！

喰らえ！……おれの『怒りの鉄拳』！…！

その時、一瞬・・・芹沢の周りの空気が変わった。

身体がざわついて、やばっ…と思つた瞬間・・・・

「喧嘩は駄目だよ！…！」

とある女子が割り込んできた。

誰だこいつ・・・？

・

「あ～味噌汁！」

「なんで？？！…！」

その女子が全力で突つ込んできた。

「秋山凪だよ！もう忘れたの！？」

「いや～味噌汁しか思いだせん」

「ひ・・・・・酷いい・・・・・」

あ～やばい半泣きだ…！そんな女子泣かせたる学校行きにくくなる

だろう！……なんとかするんだ！俺！！

「じょ、冗談！！冗談！！覚えてるよーーー！」

「ほつ本当！？」

「本当！本当！」

俺は首を全力で上下に振った。

なんだ。こいつ天然なのか？

「チツ」

と舌打ちを立てて芹沢は自分の席に座った。

ふーとホツとしたようにため息を吐いて秋山も自分の席に戻った。

そして俺は全力でため息を吐いた。

「はあ～」

すると隣の席の女子が

「ため息してると幸せが逃げるぞ？」

と呆れたように言つててきた。

「・・・えーと」

「椎名譲。譲でいいよ

「あつうん。分かった」

「そんなに堅苦しくなくていいよ。私もあんたの事、誠つて呼ぶ

から

「・・・はあ」

なんかいい人だな。と思つた。

そしてHRが始まった。

休憩中。。。。

暇だな。そう思いながら自分の席でクラスメイトを眺めてみる。

・・・あつ・・・あいつは確か金持ちの匂いがする・・・爾富・・・  
だづけ？

なんか普通に喋ってるみたいだけど・・・笑う時とかあはははじや

なくて「うふふ」みたいな感じだな  
やっぱボンボンか・・・・?

一緒に喋ってるのは確か定本とハーフの・・・誰だっけ・・・。  
なんか完璧には聞き取れないが会話にちょくちょく英語がはいつて  
るのが分かる。

なんか定本の頭の上?マークがでてるぞ?大丈夫なのか?

うんとほかには・・・・う?

一人でもくもくと本を読んでるのが一人居る・・・。

一人はあの「凛」としたイメージの・・・西山・・・さん・・?

ちょうど前の席だから本の中身を見たら・・・・

ウツ!なんだ!!」の本!!!計算式ばっかりが敷き詰められてや  
がる!!!気持ち悪い・・・・。

もう一人は・・・確かに古賀・・・だっけ?  
ちょっと行つてみよう。

本の中身を見ると・・・  
ほ。

「お前、囲碁が好きなのか?」

本の中身が分かつた理由はルールは分からぬが碁盤が本の図とし  
てあつたからである。

「・・・まあ。」

そう。古賀が答えた。

おつ!初めて芹沢以外の男子と会話が成立した!!

なんか・・・感動だ!!!

そんな感じに感動していたら  
パン!!!

「痛つ!!!?」

何かが

頭の高等部にあたつた。

「すいません！……」

ある男子が誤つてき・・・・・

「あつ。あの時のチビだ」

ピシッ！

「チビって言つ、モガ！……？」

「馬鹿か！お前が相手だつたらだいたいああゆう感じの反応ぐらい  
するぞ！」

てかちゃんと誤つたのか？！」

「誤つた！！」

「なら・・いいが・・・。あつ本当にすいません！……」

「いや、別にいいよ」

そう言つたら一人が一礼しどこかへ行つた。

・・・そつ言えば頭に何が当たつたんだ？

ほかには・・・おー、ギヨーザの皮が好きな人だ！！確かに陣明だつけ？  
話しかけようと思つたが空を見ながらボーッとしていたのでやめと  
いた。

・

あれ？もう一人空見てる奴がいる？誰だ？  
と机から身を出して見ると・・・・・・

・・・・・・ああ特やくその長門・・・だつけ？

なんだかそつち系の匂いがするがよく見ると結構なルックスだつ  
た。

ふうんと長門を眺めていると廊下から・・・・・

おい！賀川！今度こそ金返せ！……

今は無理つてこつてるだろうが――――――

あれクラスメイトじゃね・・・？

まっそんな感じで今日も終わると思っていたが  
「今日」に事件が起きるとは思つても見なかつた。・・・・・

## 第2話「決」 前編（後書き）

呼んでくださった読者の方ありがとうございました。  
これからも遅いながらも更新するのよろしくお願いします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6415m/>

---

『GSH』

2010年10月21日21時59分発行